

三原市歴史民俗資料館

# 三原のお宝 歳出しニュース

—第69号—

縄文人のアート作品 縄文土器

写真①



縄文時代は、今から約1万2千年前～約2千4百年前頃の時代で、約1万年間続きました。「縄文時代」という名前は、縄文（縄による模様）が描かれた土器を使っていたことから付けられました。しかし縄文土器は縄のほかに、いろいろな道具を使い、模様を描いていました。

写真①は小坂の貝持貝塚で見つかった縄文土器の復元品で、模様の特徴から縄文時代晩期（約3千年～2千4百年前）製作の土器と考えられています。木や竹をけずったへらで線を引き、三角形やひし形などの模様を描いています。赤い色も塗られています。

また、写真②は西宮の岩鼻下遺跡で見つかった土器です。この土器には「すり消し縄文」という方法が使われています。これは、土器に縄文を描いたあとにへうで線を引き、線で囲んだ部分をすり消すというやり方です。

その他にも、貝がらで線を引きたり、竹を押しつけて丸や半円を描いたりする方法で、土器の模様を描いていました。縄文土器からは、当時の人々が土器の表面の模様をデザインしようとした思いが伝わってくるように感じます。資料館で、美しい模様をぜひご覧ください！

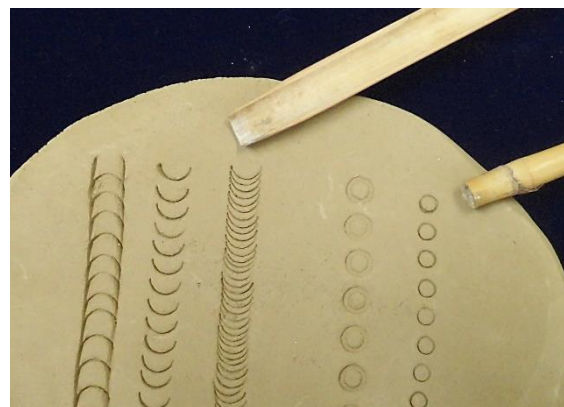
写真②



○で囲んだ部分の模様がすり消されています。



貝がらを使って線を引くやり方  
(再現)



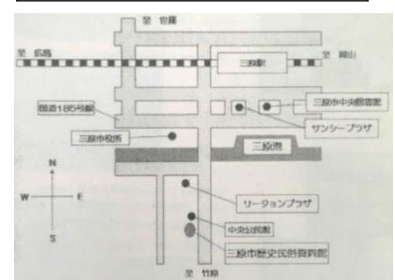
竹を使って形を描くやり方  
(再現)

市内遺跡の出土品は  
みはらデジタルミュージアム（考古）でも  
見られます！

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/site/digital-museum/>



三原市歴史民俗資料館  
三原市円一町 2-3-2  
TEL0848-62-5595  
令和5年9月発行



《編集後記》

縄文土器の模様の意味は分かっていませんが、模様をながめると、当時の人々の創意工夫が読み取れるようで、夢中になってしまいます。(み)